

謝 辞

戸田光昭教授、柴山森二郎教授の両先生は、平成 18 年 3 月末をもって定年退職されました。両先生とも、文化情報学部が創設された平成 6 年からの 12 年間、まさに基礎づくりから発展へさしかかる最も重要な時に、それぞれの最も経験深い一時期を捧げていただいたことになります。この間に成された多大なご貢献に対しここに心より感謝申し上げる次第です。

戸田先生は、就任当初から 4 年間は教務委員長、平成 13 年度から 3 年間は学部長の要職を務められ、常に学部運営の中心を担ってられました。学部教育全般への目配りと同時に、図書館情報学関連で学部創設翌年の平成 7 年度には司書課程が、また平成 16 年度には司書教諭課程が開設されましたが、その準備から運営の中心となって情熱を注がれました。司書課程の教育においては、かつて企業の調査部に勤務されたご経験を生かして、当時必修であった図書館実習の実習生受け入れ先の開拓にも腕を振るわれ、大きな成果をあげられました。就職部長を務められた一時期もありましたが、専門図書館協議会、情報科学技術協会その他先生の所属されていた外部機関およびその関係者との幅広い人的ネットワークがこのときも存分に生かされたはずです。ご専門の図書館情報学研究においては、企業における資料管理の実務経験を基礎に、記録情報の共有化・活用・創造をテーマとして多くの著作を著され、広い視野から文化情報学の展開にも寄与されました。ご著書『情報サロンとしての図書館』や、本誌に連載された「索引の研究」における旅行ガイドブックの研究などは、先生の心豊かな日常生活やご関心を反映するものでもあるでしょう。現在の図書館情報メディアコースの基盤を築いていただいたのみならず、文化情報学のありようを具体的な内容で示されていたと思います。

柴山先生は、一貫して英語教育に情熱を持って取り組まれ多大な貢献をされました。とりわけ、学部創設の初年度から TOEFL の大学等団体向けテストプログラムである TOEFL-ITP を導入するにあたってその中心を担われ、学部学生の英語能力のレベル把握・向上に寄与されました。また、Reading Laboratory のシステム、すなわち、易しい英語読み物コレクションの利用を英語授業の共通メニューの一つとし、学生に、メディアセンターに置かれたコレクションから主体的に選んで多くの文章を読み、レポートさせ活用するシステムをつくられたことも特筆されます。先生は、高等学校、高等専門学校、短大、そして二度にわたる在外研究など極めて豊富な教育経験をお持ちでした。本学では折りあるごとに講師控え室においてネイティブの講師と親しく話されていた先生のお姿が印象的で、英語での会話を自然に愉しまれていたとお見受けしましたが、英語教育に関わるすべての教員をまとめ、組織的な教育を目指されていたことの表われでもあったことでしょう。こうした姿勢は、本学における教育のみならず、別掲の略歴やご業績に見られるように、大学英語教育学会、日本英語検定協会などにおける社会的に重要な活動や各種英語辞典の執筆、教科書の編纂などとしても展開されました。

平成 17 年春の新生オリエンテーション・キャンプにおいて、同行の教職員が両先生に懐旧談をお聞きする機会がありましたが、自然体で教育に当たられ、学生にも慕われた人間味あふれたお話に、奇しくも両先生に共通するものを感じ、個人的には短いながらも両先生と大学での一時期を過ごすことができた僥倖を思わずにいらませんでした。

両先生のご健勝をお祈りすると同時に、今後とも外からご指導を賜ればと願っております。

平成 18 年 12 月

文化情報学部長 波多野 宏 之